

サステナブルな広告媒体「Loop」

(株) TechVoice



EVスクーターが広告媒体に。細道走行も可能。

2021年7月に、ソーラーパネルを搭載したEVスクーターの広告媒体「Loop」を開発、発表した(株)TechVoice。現在、東京・新宿、渋谷、表参道を中心に、トライアル走行を行っている。「Loop」の可能性について、代表取締役である茗井保郁氏に話を聞いた。

移動広告を サステナブルな印象に

『移動広告といえばアドトラックが代表的な媒体ですが、よりクールでクリーンな印象を人々に与えるようなサステナブルな媒体をつくりたいと思い、ソー

ラーパネルを搭載したEVスクーターを新たな広告媒体として開発しました』と茗井氏は話す。

(株)TechVoiceが運行している「Loop」は、ガスの排出がなく走行時の騒音もない。また、3輪バイクのため小回りが利き、細道も走行可能だ。

これまでアドトラックなどを用いて大通りでしかできなかったプロモーションが、「Loop」は小道や細道なども走行できるので、幅広い層へのプロモーションを実現することができる。

通行者の目線に ディスプレイがあり、 視認性・注目度が高い

発表されたばかりの「Loop」は、現在トライアル期間を経てフィードバック中だという。トライアル中は、マスクや熱中対策ウォッチ、CBDオイル、女性向けアクセサリなどの広告を流し、東京の都心部を走行した。

「Loop」を目にした人たちの反応について茗井氏は『通行者の目線に液晶ディスプレイがあるので視認性が高く、注目している人が多い印象でした』と話す。

オリンピック開会式の日には、



▲ オリンピック開会式の日、渋谷駅や新国立競技場周辺で実験的に走行した時の様子。



▲ トライアル期間中、新宿で運行した時の様子。ディスプレイの輝度は2,700lm程度で、昼夜問わず視認可能だ。

「TOKYO 2020 開会式」とディスプレイに表示し、通行者の注目をどれだけ集めることができるのかをテストするため、試験的に都心を走行。多くの通行者がスマートフォンを向けて撮影したり、ディスプレイを背景に自撮りをしたり、大きな注目を集めることができたという。

しばしば、のぼり旗や看板、LEDビジョンなどを活用した街の広告ジャックが目立っているが、通行者の視線により近い媒体「Loop」を加えることで、

注目度の高いプロモーションが実現できそうだ。

「Loop」を用いたプロモーションについて、茗井氏は『メディアプレイヤーをスクーターに積んでいるので、2面のディスプレイに、それぞれ異なるコンテンツを放映し、オートで切り替えることが可能です。

また、走行の際の騒音がないぶん、通行者や周囲の迷惑にならない程度の音量で、コンテンツに沿った音を流しながら走行することもできます。

「Loop」はサステナブルな広告媒体なので、クリーンなイメージやSDGsへの取り組みを大切にする企業様や製品のプロモーションにはぴったりです』と話した。

SNSなどを中心として“バズる”広告展開が期待される。

(株) TechVoice

東京都港区虎ノ門5-3-2 神谷町アネックス6階

TEL. 080-7048-7770

<https://www.evloop.jp>